

日時
10月13日(日)
10:00~11:30 映画上映
11:45~12:30 スペシャルトーク

会場
TKPシアター柏 Supported by KINEJUN

入場料
1,300円
※スペシャルトークは、10月12日、13日の「ハーブ&ドロシー ふたりからの贈りもの」か、「ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人」の鑑賞チケットの提示でご入場いただけます。

お問い合わせ
Tel. 04-7141-7238
(TKPシアター柏 Supported by KINEJUN)



映画「ハーブ&ドロシー」 × 佐々木芽生 監督 現代アートコレクター 宮津大輔氏 スペシャルトーク

アート界を感動で包んだ前作「ハーブ&ドロシーアートの森の小さな巨人」の続編「ハーブ&ドロシーふたりからの贈りもの」が完成しました。
ごく普通の夫婦が奇跡ともいえるアートコレクションを築き上げ、
全米の美術館に無償寄贈、続編はその作品を追います。
柏での二作品一挙上映を記念して、佐々木芽生監督と宮津大輔氏をお招きし、
ハーブ&ドロシーとの交流やアート収集の楽しみについて語ってまいります。



佐々木芽生 (ささき めぐみ)

北海道札幌市生まれ。青山学院大学仏文学科卒。
1987年に渡米。以来ニューヨーク在住。
1990年よりフリーのジャーナリストとして活動。
1992年、NHKニューヨーク総局勤務。
1996年に独立し、テレビ・ドキュメンタリーの取材制作に携わる。2002年、映像制作会社・(株)フライン・ライン・メディア・ジャパンをニューヨークに設立。
2008年、初の監督・プロデュース作品「ハーブ&ドロシーアートの森の小さな巨人」を発表。
同作品は、世界で30か所を超える映画祭に正式招待され、5つの最優秀賞や観客賞を受賞。続編となる「ハーブ&ドロシーふたりからの贈りもの」は今年3月に日本公開。
国際捕鯨競争をテーマにした作品も製作中。



©Yoko Asakai 2010

宮津大輔 (アートのコレクター)

サラリーマンである傍ら、収集したコレクションや、アーテミス社と共同で建設した自宅が、東京オペラシティアートギャラリー、テリム現代美術館(韓国・ソウル)での展示をはじめ、国内外のメディアで紹介される。2011年MOCA TAIPEI(台湾・台北)で大規模なコレクション展開催。
*WONDER SEED (東京ワンダーサイト) 2010-13 審査員、アートフェア東京 2011-13 PROJECTS Artistic Committeeメンバー。
著書「現代アートを売買する」(集英社新書/中国語・繁体字版・台湾 Uni Books) 他。
Facebook :
<https://www.facebook.com/DaisukeMiyazumiCollector>
新浪微博: Sina Weibo :
<http://weibo.com/u/2855143297>

HERB & DOROTHY 共
ふたりからの贈りもの

TKPシアター
SUPPORTED BY KINEJUN

アートラインかしわ2013

TKPシアター柏 Supported by KINEJUN では、 アートラインかしわ2013の連携企画として、 ハーブ&ドロシーの2作を含む3作品を上映！

期間 / 10月12日(土) — 25日(金)

料金 / 1,300円

会場 / TKPシアター柏 シアター2

詳しい上映スケジュールは、TKPシアター柏までお問い合わせ下さい。

TKPシアター柏 Supported by KINEJUN

Tel. 04-7141-7238

http://www.kinenote.com/main/tkptheater_kashiwa/home/



Copyright©2008 Fine Line Media, Inc. All Rights Reserved.

ハーブ&ドロシー アートの森の小さな巨人

ごく普通のアメリカ市民が、国立美術館に2,000点以上のアート作品を寄贈した！世界のアート界に衝撃を与え、数多くの映画祭で最優秀ドキュメンタリー賞、観客賞を受賞した、映画のようなほんとうのお話。

4,000点もの現代アートコレクションを築きあげた、ハーブ&ドロシー夫妻の姿に迫ったドキュメンタリー。二人のアートに対する姿勢を通じて、お金では買えない、本当に豊かな人生とは何かを考える。

ニューヨークで暮らす郵便局員のハーブと図書館司書ドロシー。夫婦共通の楽しみは現代アートのコレクション。作品を選ぶ基準はふたつ。①自分たちのお給料で買える値段である事、②1LDKのアパートに収まるサイズである事。そんな二人が慎ましい生活の中、あくまでも自分たちの気に入った作品を、30年をかけコツコツ買い集めたコレクションは、気づけば膨大な数におよび、いつしか20世紀のアート史に名を残す錚々たる作家たちの作品が集まっていた。そんな二人に、アメリカ国立美術館からコレクション寄贈の依頼が舞い込む。



Copyright©2008 Fine Line Media, Inc. All Rights Reserved.

ハーブ&ドロシー ふたりからの贈りもの

ごく普通の市民から偉大なアートコレクターとなった夫婦ハーブ&ドロシー。今度は全米50州の美術館に2,500点ものコレクションを寄贈する計画が。ハーブとドロシーが笑って泣ける冒険の旅に出る。

ハーブ&ドロシーのお話の続きは、夫妻の人生とコレクションのその後を追う、いわば二人の物語の完結編。二人のコレクションは、半世紀を経て5,000点近くまで増え、ついには国立美術館でも収蔵しきれなくなってしまった。そこで急遽、全米50州の美術館に50作品ずつ、計2,500点を寄贈する『ドロシー&ハーバート・ヴァーゲル・コレクション：50×50』という計画を発表。ラスベガスからハワイ、ニューヨークまで、個性たっぷりのふたりのコレクションは、全米各地でどう受け止められるのか。カメラは二人の胸のうち、作品アーティストたちの想い、全米に散ったコレクションの行方を追う。そして、ついにコレクションの幕が閉じられ、45年間いつも一緒だった夫妻にも別れの時が近づいてきた。



©Vik Muniz Studio

ヴィック・ムニース ごみアートの奇跡

『芸術で世界を変える！』ひとりのアーティストの決心が、世界最大のごみ処理場で働く人々の人生を輝かせていく。アートが現実社会を変えられるのか、人を変えられるのか。壮大な試みが、今、明らかになる。

ニューヨークを拠点とし、チョコレート・シロップやピーナッツバターなど、身近にある素材を使って絵画の制作をする現代芸術家ヴィック・ムニース。貧しいながらも成功し、世界的に著名になった彼が、故郷ブラジル、リオ・デ・ジャネイロ郊外にある世界最大のごみ処理場「ジャウジン・グラマージョ」へと旅をし、「カタドール」といわれるリサイクル可能な素材を拾い集める人々のポートレート写真におさめていく。そして、ごみの山で集めたガラクタで“カタドール”たちの巨大ポートレートのモザイク画を制作。この作品を通して、ほんのわずかでも“カタドール”たちをほかの世界に連れ出せないか、彼らの人生を変えられないかと思うムニースは、作品をオークションで販売し、得たお金を“カタドール”に全額寄付するが・・・。第83回アカデミー賞長編ドキュメンタリー部門にもノミネートされた、感動のドキュメンタリー。